

日本感染管理ベストプラクティス “Saizen” 研究会

第12回セミナーグループレポート

2017年4月22日(土)

場所: 大阪国際会議場10階



★第1会場 シンポジウム★

「最優秀ベストプラクティス賞受賞施設のその後～あの人と施設は今?～」として4題を、大成ビルサービス株式会社 今村病院分院 岩坪弘樹先生、名古屋市立緑市民病院 帯金里美先生、東生駒病院 坂本恵理子先生、総合青山病院 加藤真弓先生に、継続とその効果及び課題について発表して頂きました。

発表や質問からもありましたように、以下のようなことが明らかになるのではないのでしょうか。

- ① 現状をチェックすると、新たな気づきや意識改革ができる。
- ② 評価期間が終わると以前に戻るスタッフも存在し、定着し継続していくことの困難さがあるが続けていくことが必要である。
- ③ 上層部に理解してもらうことが難しく改革が困難なことがある。

ベストプラクティスは、施設ごとのいろいろな問題が存在するなか、感染管理認定看護師や参加する仲間とともに一緒に考えていくことができる場所となっています。



★ロビー★

感染に関する沢山の資料が閲覧可能です。



★ポスター会場Dでは・・・★

～末梢カテーテル関連、中心カテーテル関連、採血、血液培養～

＜座長から発表前の内容の確認＞ワーキンググループや現場で特に頑張った事、困ったことなどを確認し、実りある報告になるよう話し合いが行われました。

＜発表では・・・＞

以前よりワーキンググループに参加し導入されている施設も多く、意識の高さを感じる発表が多く聞かれました。

調査をすることで課題が明確になり、手順の統一ができた施設や、他職種と連携により工夫して作成したものを使用した発表も聞かれました。

会場の後ろまでいっぱい盛況な発表会場でした。



★その他ポスター会場★

どの会場も気になる発表をカメラに収める風景でいっぱいでした。

施設からの複数の参加者もあり、あちらこちらで討議されていました。

「どの発表内容も聞きたい」という感じでした。

